

絵本で育てるコミュニケーション

- ① ♪とんとんとんとんアンパンマン
- ② ♪あたま かた ひざ ポン
- ③ 大型絵本『ぴょーん』
- ④ 大型絵本『だるまさんが』



★ 子どもが絵本に興味を持つのは、だいたい1歳前後です。

子どもが興味を持ったもの、楽しそうに注目してくれるものを選ぶのが第一です。「最初から1ページずつめくる」「大人が文字を読み終えるまで待つ」などは、必要ありません。子どもが気になったところを一緒に見るというところから初めてください。絵本を介して「読む人」「読んでもらう人」との間に、楽しい気持ちの交流が生まれることが大切です。

★ 擬音語の繰り返しのある絵本は、リズムカルで、子どもの耳に残りやすいです。擬音語に合わせて身体を動かすことで、より印象に残りやすくなり、外で遊ぶ時などでも同じ擬音を使って、遊びに誘ってみることもできますよ。

手あそび：「あたま かた ひざポン」

『あたま かた ひざポン ひざポン ひざポン』

あたま かた ひざポン 目 耳 鼻 くち 』



「あたま」「目」「耳」など身体の部位をしぜんと覚えらるる歌です。
子どもと向き合って、大人が触る箇所を見せましょう。
身体の部位を歌う時は、少しゆっくり、
はっきりと伝えるとより分かりやすくなります。





こんな絵本がおすすめ！



0歳～ 1歳ころ	はじめて出会う絵本は、日常よく目にするものがシンプルに描かれているものや、リズムカルな短い言葉が添えてあるものがよく、絵は美しい色ではっきりしているものが適しています。 
2歳ころ	言葉が急速に発達する2歳ころは、絵や言葉のリズムに導かれて、絵本のおもしろさがわかるようになります。
3歳ころ	先を見通す力がついてくると、「最後にはこうなる」と結末を予測する力もついてくるので、絵本のストーリーが少しずつ理解できるようになってきます。ストーリーがわかるようになれば、想像の世界が広がっていきます。



テレビ・ビデオの上手な使い方



- ① 2歳以下の子どもには、テレビやビデオを長時間見せないようにしましょう。内容や見方によらず、長時間視聴児は言語発達が遅れる可能性があります。
- ② テレビをつけっぱなしにせず、見たら消しましょう。
- ③ 乳幼児にテレビ・ビデオを1人で見せないようにしましょう。見せる時は、親も一緒に歌ったり、子どもの問いかけに答えたりすることが大切です。
- ④ 授乳中や食事中はテレビをつけないようにしましょう。
- ⑤ 乳幼児にもテレビの適切な使い方を身につけさせましょう。一日2時間までとし、見終わったら消すこと。ビデオは続けて反復視聴しないこと。
- ⑥ 子どもの部屋にはテレビやビデオを置かないようにしましょう。

～日本小児学会 提言～

